

令和２年度 総務部 年間実施記録

実施計画	重点目標	１．ＰＴＡ活動の維持 ２．学校行事の効率的な運営（省力化）	
	現 状	・東北高Ｐ連秋田大会をきっかけにＰＴＡ活動の活性化を図ろうとしていたが、新型コロナウイルス拡大感染防止のため、総会をはじめとして、活動が大きく制限されている。 ・150周年を３年後に控えて業務の増加が予想されるが、各種行事の数は減らないことなどから、行事運営の効率化、省力化が求められる。	
	具 体 的 な 目 標	１．感染拡大防止で集会が制限される中において、ＰＴＡの連帯を保つ。 ２．電子化、ネット化できる事業を洗い出し、省力化と利用者の利便性の向上を図る。	
	目標達成のための方策	・リモートによる会合実施など、w e bを活用したＰＴＡ活動を模索する。 ・体験入学の通知や申し込み、保護者アンケートやその他外部への通知等の電子化を導入する。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・コロナ感染拡大防止のため、ＰＴＡ役員会は三役のみで、また総会は书面決議で実施した。新入生オリエンテーションや体験入学等は大人数のため二部構成とした。 ・校内ＰＴＡ行事のうち、「敬天週間」でのあいさつ運動、ＰＴＡ広報誌『たかだい』発行は、ほぼ例年通り実施できた。 ・コロナ禍により高Ｐ連の行事はほとんど中止となり、本校からの参加もなかった。 ・体験入学や学校評価のアンケート、ＰＴＡ出欠確認等をw e bフォームで実施し省力化を図った。	
	達 成 状 況	・ＰＴＡ役員会、総会については現状において最大限の実施ができたと考えている。 ・集会等の行事において、感染拡大防止を念頭におきながら、より効果的な実施ができつつあると感じている。 ・業務改善等で提案いただきながら、各種アンケートや参加募集、出欠確認等、可能な限り電子化に取り組み省力化を図ることができた。	評 価 B
次年度の改善策		・PTA 役員相互や学校間においてオンラインでのＰＴＡ活動の具体的な運用を図っていききたい。このことについては、本校だけでは実施できないため、高Ｐ連等を通じて、具体的な提案をしていきたい。 ・150周年の運営委員会を令和３年度に立ち上げとなったことを機に、業務のネット化（クラウド化）を図りたい。	
学校関係者評価		意 見 ・コロナ禍という状況の中で様々な工夫され、総会等ＰＴＡ活動等を効果的に運用されたと思います。 ・コロナ禍の中で、具体的な取組状況に工夫が見られ改善を図っている。特に省力化を図る取組は、今後の「働き方改革」への貴重な糸口になると思われる。	評 価 B

令和２年度 教務部 年間実施記録

実施計画	重点目標	１．データの管理やチェックを適正に行う。 ２．さらなる分掌業務の効率化を進める。	
	現 状	・成績会議資料で、点検後に修正が必要となる事例がみられた。 ・前年度に校内規定の見直しを行ったが、日常業務量が多い状態が続いている。	
	具 体 的 な 目 標	１．特に繁忙期におけるデータの管理やチェックのあり方の改善を図る。 ２．今年度も各種業務内容の見直しを行い、校務処理を円滑に進める。	
	目標達成のための方策	・データ取り扱い上の留意点を分掌内で確実に共有し、ゆとりある作業行程をつくり正確なデータ管理を行う。 ・授業交換手順の検証など業務量の多い項目の改善に努め、関係職員への周知と協力依頼を行う。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・授業交換手続き及び交換結果の表示について変更した。 ・成績資料等の確認作業を学年部毎に分担するなど、適切な作業量を意識して実施した。	
	達 成 状 況	・今年度は例年と異なる日程や対応を迫られることが多かったが、柔軟に対応できた。 ・学年や教科担当者から、成績会議後に成績修正の申し出が複数あった。教務部内での確認のみならず、教科・学年・クラス段階で注意すべき要因がみられ、啓発や注意喚起を行っていく必要がある。	評 価 B
次年度の改善策		・各教科科目へ正確な成績集計とチェックを引き続き啓発するとともに、処理日程等設定にも留意する。 ・校内のＩＣＴ化が進む中で、教務部の業務内容の効率化に取り組む。 （授業変更連絡など）	
学校関係者評価	意見	・業務量の多い項目の改善に努められたこと、高く評価できと思います。	評 価
			B

令和 2 年度 企画研修部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 教職員個々のスキルアップを目指した授業改善に取り組む。 2. 全職員の協働により校務の効率化を目指した業務改善を図る。	
	現 状	・授業アンケートが授業改善にうまく生かされていない他、校内授業研究会（公開）での外部指導者の活用や活発な協議がなされていない。 ・各分掌の目標共有、改善のPDCAサイクルがうまく回っておらず、目標達成までのスピード感がなく効率化が図られていない。	
	具 体 的 な 目 標	1. 授業アンケートの効率化と分析結果の共有を図り、授業改善に生かす。 2. 校内授業研究会（公開）について、外部関係者のより多くの参加と教科を越えた活発な協議を目指し、実施方法を見直す。 3. 業務改善のPDCAサイクルを回し、目標達成までの効率化を図る。	
	目標達成のための方策	・Google フォームを活用し授業アンケートの省力化を図り、その分析結果をもとに後期の授業改善を図る。 ・校内授業研究会（公開）は、文系・理系・実技系の各教科より原則1教科ずつの授業実施とし、教科を越えた参観・協議を促す。また、授業者は外部指導者との共同により指導案を作成することとする。 ・業務改善は、「実施計画」に基づき前期・後期でそれぞれの実施状況を共有し、見直しのサイクルを早め、目標達成までの効率化を図る。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・Google フォームを活用し授業アンケートの省力化を図り、その分析結果が後期の授業改善に生かされるようデータの整理を行った。 ・校内授業研究会（公開）では、教科を越えたグループワークの実施、外部指導者による指導案作成や協議における指導助言に取り組んだ。 ・業務改善サイクルを回し、前・後期概況の共有、年度内・次年度の改善提案及びその方策検討等に取り組んだ。	
	達 成 状 況	・授業アンケートの効率化が図られたほか、教科内での課題共有により、後期の授業改善につながった。 ・校内授業研究会（公開）の外部参加は少なかったが、教科を越えた活発な協議、外部指導者による指導助言を実現した。参加者アンケートでの評価は概ね良好（大変よかった57%, よかった43%）で、自由記述からは授業改善への意識変容がみられた。 ・業務改善のPDCAサイクルを回し、目標達成までの効率化を図ることができた。特にチェックを前・後期で実施し、それぞれ改善への提案と方策検討を行うことができたことは評価できる。	評 価 A
次年度の改善策		・授業改善および業務改善の実効性を高める。 ①授業改善サイクルの確立、授業参観の強化、授業研究会の内容充実 ②ICT活用事例の共有化と職員研修の充実 ③業務改善PDCAサイクル（特に[C]→[A]）のレスポンス強化	
学校関係者評価	意 見	・教科を超えた参観、協議、外部指導者の活用など質の高い授業研究を展開され、素晴らしいと思います。	評 価
			A

令和2年度 生徒指導部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 交通事故の未然防止	
	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度報告のあった自転車事故、19件と過去5年間で最多。 ※H27-11件、H28-19件、H29-16件、H30-13件 昨年度を見ると、1年生の事故が多発。左折車との接触、加害事故や自転車指導警告数も増加傾向にある。 	
	具 体 的 な 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自転車事故5件以内 2. 自転車乗車に際してのルール、社会のルールを遵守する姿勢を育む。 3. 生徒自らの発案による取り組みの充実。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・未然防止に向けた生徒指導部会報 ・関係機関との連携（秋田東警察署、少年保護育成委員会、PTAなど） ・生徒会企画による交通安全教室への支援 	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会企画による交通安全教室の実施。 （通常の交通安全教室は新型コロナにより中止） ・関係機関の協力を得て年間5回「敬天週間」を実施。 	
	達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・報告のあった自転車事故件数は10件と、目標の倍となってしまうが、昨年度と比較するとほぼ半減した。ある程度の成果はあったと考えている。 	評価 B
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・年間2度の交通安全教室の実施。 （外部講師による教室と生徒会企画） ・引き続き関係機関（秋田東警察署、少年保護育成委員会、PTA等）の協力を得ての「敬天週間」の実施。 	
学校関係者評価		意見 <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧なご指導をされていると考えます。その中で昨年より半減したとは言え自転車事故10件は残念でした。 	評価 B

令和2年度 進路指導部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 生徒の進路意識の高揚をはかり、第一志望を実現するための効果的な支援を行う。 2. 大学入試改革に対応した活動を計画・実践しながら、各学年に適した支援をしていく。		
	現 状	・生徒の目標実現に向け、各学年段階での指導及び適切な進路事業の実施により、成果はでてきているが、難関大入試への対応には課題もある。 ・生徒の学力状況の把握と職員間での情報共有、継続的な授業改善、変化する入試改革への対応は、常に求められている。		
	具 体 的 な 目 標	1. 進路指導部と学年部、各教科との連携を密にする。 2. 生徒の志望と学力状況を把握・分析し、職員間で共有しながら、目標を見定め、根拠ある活動につなげていく。 3. 大きく変化した入試改革に対応した体制の構築と継承をしていく。		
	目標達成のための方策	・進路指導部と学年部、各教科との連携を図る。 ・生徒の学力状況の把握と分析、職員間の共有に努める。 ・難関大受験を見据えた授業実践を推進する。		
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・現状を把握するため成績を分析し、学年と共有した。 ・講演会などの行事や大学入試オンライン面接・出願だけでなく、コロナ対策の行動履歴の作成等に対応した。 ・「総合型・学校推薦型選抜対策室」を設置した。		
	達 成 状 況	・行事変更に対応し充実した内容で実施した。 ・学年・各教科と情報共有、指導の協力、各学年の反省点の把握や問題点の共有など、深い関係を築けた。 ・授業に関しては、本校の目標とするレベルへの到達という点で反省点があり、改善と工夫の必要がある。		評 価 B
次年度の改善策		・業務改善も含め「総合型・学校推薦型選抜対策室」のように学校全体で対応する体制づくりをさらに向上させていきたい。 ・進路行事など検討を重ねた上で、現状で実態に合わない時期設定や内容を改善して、効果を上げていきたい。		
学校関係者評価		意見		評 価

令和2年度 特別活動部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 自主的、実践的な集団活動を通して、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	
	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は「文武両道」「自主自律」の精神を実現させるべく前向きに取り組んでいる。 ・学業と部活動との両立に苦しんでいる生徒が多い。 ・各種大会の中止に伴い、生徒が目標を見失うことが懸念される。 	
	具 体 的 な 目 標	1. 各分掌と協力し、キャリア教育的視点に立ちながら「文武両道」「自主自律」を体現するための支援の充実を図り、特別活動を通じて人間性豊かな生徒を育成する。	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に取り組みやすい環境作りに努めるとともに、学業との両立を図るため、適切な部活動が行われるよう促す。 ・LHRの時間を効果的に運用する。 	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動における感染防止を第一に考え、状況に応じ各部に対して練習時の感染防止策についてお願いした。 ・第3回「北雄の翼」は感染防止のため中止となった。 	
	達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動において、感染防止を念頭に置いた練習や活動が行われた。 ・開催された大会が少ない中、運動部では4部述べ7名、文化部では4部述べ16名が全国大会へ進出した。 ・LHRの時数を確保し、進路学習や講話など多岐にわたる活動が行われた。 	<div>評価</div> <div>B</div>
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も感染状況等を注視しつつ、引き続き部活動に取り組みやすい環境づくりに配慮する。 ・対面・オンライン形式で実施予定の来年度「北雄の翼」において、多くの生徒が充実した研修を行うことができるように企画を進める。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、各分掌と協力しながら、多くの成果を残されたと思います。 	評価
		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で活動が制限され、結果として目標は達成しなかったかもしれないが、それは不可抗力。Aに近い評価でもよいのではないかと思います。 	B

実施計画	重点目標	1. 感染症予防及び感染症拡大防止対策を行う。 2. 環境美化を促進し学習環境整備を図る。 3. 心身両面にわたる健康を実現するための支援体制を充実させる。	
	現 状	・新型コロナ対策のための校内の消毒や、授業・検診などの日程調整が大変である。 ・昨年同様に黒板周辺の汚れが目立つほか、教室におけるゴミの分別が不十分である。 ・悩みを抱えた生徒が多く、保健室やスクールカウンセラーの活用が見られる。	
	具 体 的 な 目 標	1. 感染予防及び拡大防止のためにできることを臨機応変に行う。 2. 環境美化週間において、黒板およびその周辺の清掃やゴミの分別を重点的に確認し、優秀クラスを増やす。 3. 各学年部との情報共有を図り、生徒個々の状態を把握するとともに、必要な支援を組織的に行う。	
	目標達成のための方策	・保健・教育相談部会の先生を中心に校内の消毒をこまめに行い、予防や感染拡大のための情報発信に努める。 ・厚生委員会を中心に、教室内の分別状況の確認を行う。 ・生徒に対して細やかな対応ができるよう、部会等において教育相談担当および学年担当が生徒の状況について報告し、情報を共有する。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・感染症予防及び拡大防止対策として毎朝、健康調査を行い、生徒にも自分の体調を管理してもらうために毎月、体調チェックシートの提出を義務付けた。 ・厚生委員にポスターを描いてもらい、感染症予防のための手洗い・マスク着用やゴミ捨てのルールを全校生徒へ伝えた。 ・サポートが必要な生徒について情報共有を図った。	
	達 成 状 況	・感染症予防対策については現在考えられることは何でも取り入れ、学校で感染症が拡大しないように務めた。	評 価 A
次年度の改善策		・引き続き感染症予防対策に努め、情報収集を行う。 ・養護教諭や担任の負担が大きいため、できるだけ仕事を分担し負担を減らす方向にしたい。	
学校関係者評価		意 見 ・コロナ禍という厳しい状況を、丁寧なご指導によって克服されてきたと思います。高く評価できます。	評 価 A

令和2年度 図書・視聴覚情報部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 図書館や視聴覚関連の環境整備を促進し、生徒や職員の利用に資する。 2. 職員の情報共有による校務の円滑化を図る。	
	現 状	・図書:図書館の環境整備や効果的な活用、図書館報による情報提供を更に充実させる必要がある。 ・視聴覚:視聴覚機器を使用する場面が限られている。 ・「Rグループ」は全職員が使用しているものの、有効に活用されていない面がある。	
	具 体 的 な 目 標	1. 図書:生徒が図書館を活用し、読書によるキャリアプランニングや探究活動を行うことができる環境を整備する。 2. 視聴覚:視聴覚機器、視聴覚教材の活用を促す。 3. 情報:サーバーと校内LANの管理に努める。「Rグループ」等での情報の共有による校務の円滑化を促進する。企画研修部と連携して校務及び授業のICT化を図る。ホームページを充実させる。	
	目標達成のための方策	・図書:図書委員の活動を促し、環境整備や図書館報の発行等を充実させる。 ・視聴覚:校内で利用できる機材と使用形態の研究を進める。 ・情報:情報を共有しつつ、組織的に活用するための方策を検討する。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・図書:新聞や雑誌、新刊図書等を2階コモンスペース脇のコーナーに置き、生徒が手にとりやすい環境を作った。 ・視聴覚:プロジェクターや視聴覚室の利用は日常的になされている。 ・情報:情報共有に関してはGoogle クラスルームを用いることになった。	
	達 成 状 況	・図書:図書委員の活動を促す、という点ではまだまだ十分とはいえないが、コモンスペース脇のコーナー設置の際は書架や本の移動、コーナーに置く本の選択等、図書委員が意見を出し合い作り上げた。 ・視聴覚・情報:ICTの推進等、分掌を超え学校全体として新しい環境作りが進んだ。	評 価 B
次年度の改善策		・休校措置に伴うGoogle クラスルームの導入、次年度から本格的に使用される電子黒板やタブレットの導入等を考えると、図書・視聴覚・情報の三分野を一つの分掌とするよりも、必要とされる仕事の内容に沿って組み直すことで、それぞれの機能が一層充実するものと思う。 ・図書部門については、図書委員による定期的な図書館だよりの発行を次年度の活動目標としたい。	
学校関係者評価		意 見 ・図書委員を生かしてのコーナー設置、ICT等の新しい環境づくり等丁寧なお仕事をされていると思います。	評 価 B

令和２年度 研修会館運営部 年間実施記録

実施計画	重点目標	１．キャリア教育の観点から、合宿等の活動を通して生徒の自己発見の援助を行う。 ２．研修会館の施設設備について維持改善に努め、利用利便を図る。	
	現 状	・昨年度から研修会館の食堂が開設された。 ・研修会館の老朽化が進み、破損箇所が増加している。	
	具 体 的 な 目 標	１．宿泊施設の破損箇所整備。 ２．合宿以外の研修会館利用管理。 ３．各種合宿計画とその調整。	
	目標達成のための方策	・定期的な巡回による施設・整備の点検や合宿やその他使用等による予約表の作成。 ・	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・研修会館の利便性を高め、施設の備品の衛生管理、修繕の関係者と事務室と連携を図った。 ・研修会館使用予定表の作成、管理。	
	達 成 状 況	・宿泊施設の備品の衛生整理に重点を置いた。 ・食堂の生徒の利用頻度が高まり、衛生面の強化を図った。	評 価 B
次年度の改善策		・研修会館の老朽化により、定期的な巡回点検を実施し修繕、管理に努める。 ・食堂の多数利用があり、特に衛生面の強化を図る。	
学校関係者評価	意見	・衛生面の強化を図られる等丁寧にお仕事をされていると思います。	評 価
			B

令和２年度 理数科 年間実施記録

実施計画	重点目標	１．日常の学習活動や行事を通して、科学や数学における系統的な理解を深め、自分の考えを表現する能力と態度を育てる。 ２．理数科行事や課題研究の全体的な充実を図り、新しい講座やセミナーなどに積極的に参加させる。		
	現 状	・探求活動や行事が充実するほど授業時数の確保が困難になり、授業の進度が速くなり、十分に定着を図る時間が少ない。 ・筑波理数研修や各種講義・実験などの理数科行事は、満足している生徒が多い。課題研究においては、自立した研究者の育成をめざした指導がなされており、外部団体からも高い評価が得られたが、研究費用の確保、評価と連動した学習計画が未整備であること等の課題を抱えている。		
	具体的な目標	１．理数科は理数に関する専門教育を行う学科であるという認識のもと、その魅力を最大限に発信するとともに、特に２年生の課題研究において全体のレベルアップを図り体系的な研究活動を進め、その評価を行う基礎を確立する。		
	目標達成のための方策	・東北大学などが主催するセッションなどに参加し、他校との共同研究を行う。 ・専門的知識も多彩に含み、生徒の知的好奇心高めるような授業を実践する。		
実施内容	具体的な取組状況	・東北大学探Qなど、積極的に外部団体との協同研究に参加した。 ・博士号教員や大学教員による専門的な内容の講座を実施した。		
	達成状況	・日本動物学会東北支部大会で２件発表した。また、３月に日本物理学会、化学工学会、令和３年度全国高等学校総合文化祭秋田県代表で発表する予定である。 ・中高生情報学研究コンテストで日本学生科学賞入選２等を受賞した。 ・つくば研修の代替としてオンライン研修に参加する。		評価 A
次年度の改善策		・令和４年度入学生から１年次の総合的な探究の時間を探究基礎に組み替える際、内容を検討する必要がある。 ・１年生に対する理数科の紹介を充分にする。		
学校関係者評価	意見	・外部団体との協同研究、素晴らしいと思います。これが各教科や「知の探究」にも広がるとよりよいと感じます。		評価
				A